

鳴物

演目の音楽や楽器を鳴物と呼んでいます。

鳴物は、“おおど”と呼ばれる長胴太鼓[1張]、“つけ”と呼ばれる附締太鼓[2張]の他、篠笛[1管]、鉦[1鐘]があります。それぞれの演目で“しちようめ”“しんば”“みんな”と曲が変わり、息のあった鳴物が踊り手の表現をより一層引き立てます。

最初と最後には、踊りがない“さんぎり”を囃します。“さんぎり”は、無事奉納と遂行を祈願した儀礼的な曲です。



伝統の継承

排禍ばやし保存会では、幼児や学生などの若年者を中心に、年中定期的に鳴物や舞い踊りの練習を行い、伝統を次世代へと継承しています。興味関心がある方は、ぜひ練習の見学や体験にいらして下さい。



年中行事

片野八幡神社

夏の例祭 - 7月

秋の祭礼 - 10月



茨城県

指定無形民俗文化財

排禍ばやし

URL <https://haikabayashi.ishioka.city>

E-MAIL info@haikabayashi.ishioka.city



イト QRコード
Meibo 排禍ばやし



著制作 大瀬陽介
発行 排禍ばやし保存会 会長 加藤吉市
平成31年3月

八幡神社と排禍ばやし

時は永禄年間(16世紀)、片野城の城主であった太田資正が武運を祈願し、氏神として片野に八幡神社を建てました。神社の建立の際に奉納の舞として、諸々の禍を排して繁栄を願う意から排禍ばやしが納められたと言ひ伝えられています。



現在は、夏(7月)と秋(10月)の祭りに排禍ばやしが奉納され、舞は4つの演目から構成されます。この舞は、当時の戦国時代における社会の全容を芸の中に取り入れたもので、古くから「片野のひよっこ」や「片野のおかめ」と呼ばれ庶民の中に親しまれてきました。近年では、奉納の舞の他、県内外を問わず多方面にわたり式典や催事等でも披露しております。

また、昭和37年10月に茨城県の無形民俗文化財に指定されました。排禍ばやしの健全な保存と伝承を目的に排禍ばやし保存会が結成され、長年にわたり伝統を継承しています。

獅子舞

雌雄一対の金色の獅子は、戦国時代の武家の威厳と権力を表し、4人の舞手により披露されます。獅子の所作を写実的に表現している舞は、露祓い・悪魔祓い・五穀豊穰を祈願したものであり舞い狂う姿は格調高く、勇壮活発であります。



おかめの舞

戦国時代の女性の忍耐と寛容さを表現したおかめの舞は、男が女姿で舞い踊ります。この女性らしいゆっくりとしたしなやかで華麗な舞は、上品さと楽しさがあり情緒あふれ、心和むものであります。



きつねの舞

きつねの舞は、商人の狡猾さを表しています。その姿は、狡賢い狐のようで鋭い目つきと俊敏な動きは、獲物を捕らえるかの如く、全身を使い表現されます。また、蜘蛛の巣が投げ散らされた瞬間、観衆からは大きな歓声があり、多くはこれに捕らわれてしまうでしょう。

ひよっこの舞

農民が重税と強制的な重労働にあえいでいる姿を舞い演じます。個性豊かで滑稽な舞は、囃子手と調子が合い、観衆のこころをぐっと引き寄せてくれるでしょう。また、古くから伝わる足踊りは、独自に改良発展した芸であります。

